



横浜市立富岡小学校

学校だより 9月号



夏休みが終わって ～子どもたちの充実した生活に向けて～

副校長 青木 智

「まだ夏は終わらせない」とばかりに鳴くセミたちの間から、「晩夏の使者」ツクツク法師の声も聞こえてくるようになりました。長い夏休みも終わり、子どもたちの元気な声が戻ってきました。この夏休み期間中の7月30日（月）に金沢区水泳大会が開催され、4～6年生の児童44名が参加しました。子どもたちは、もてる力を出し切り、自己ベストを更新しようと精一杯泳いでいました。泳ぎ終わった後には、どの子にも「力を出し切った。」「頑張った。」という達成感が見られました。この大会を経て、8月24日（金）には、横浜市立小学校の代表が集う横浜国際プールで、市水泳大会が行われました。本校からも4名の児童が代表として参加し、自分への挑戦とチームへの思いを胸に、熱い1日を過ごしました。

さて、今年の夏は、4年に一度行われるアジア版オリンピックである第18回アジア競技大会がジャカルタで開催され、連日、日本選手の素晴らしい活躍が報道されていました。メダルを手にした選手たちは、インタビューで自分自身の喜びや応援してくれた方々への感謝のことは、これまでの努力を語りながら幸せそうな表情をしていました。

試合後の選手たちの話から、人間の幸せ、幸福について考えてみました。人間の幸福を決める因子に4つの因子があることを幸福学の研究者である慶応義塾大学大学院教授の前野隆司さんが明らかにしています。

「やってみよう因子」（自己実現と成長の因子）、「ありがとうの因子」（つながりと感謝の因子）、「なんとかなる因子」（前向きと楽観の因子）、「あなたらしく因子」（独立とマイペース因子）が幸福をもたらす因子だそうです。私たちは、この4つの因子のいろいろな組み合わせで幸福を感じているのだそうです。

子どもたちのいろいろな活動の中に、4つの因子のいずれかを探してみると、確かにそうだなと思えることがたくさん見つかります。面白そうだな、よしやってみようと自発的に取り組んでいるときは楽しそうで幸せそうです。友達と関わりながら一緒に一つのものを目指しているとき、子どもたちは輝いています。自分らしさを発揮して活動しているとき生き生きしています。

これから始まる学校生活では、子どもたちに幸福の因子がたくさん見られるように、そして、子どもたち自身が喜びや幸せを感じられるように職員一同、充実した教育活動を進めていきたいと思えます。保護者の皆様、地域の皆様、今後とも本校の教育活動にご理解とご協力をお願いいたします。

＝ 学校閉庁日のご協力、ありがとうございました ＝

本年度、本校では8月3日～16日までの14日間を学校閉庁日とさせていただきます。この期間は、学校との連絡がつきにくい状態となりました。昨年度より長い閉庁期間でしたが、保護者の皆様、地域の皆様のご協力に感謝申し上げます。

